

早期内定へ面接会などイベント多彩



「コロナ禍で就活に出遅れた。友人の多くは既に企業に内定し就活を終えている。私も早く決めたいが心ばかり焦っている」。毎年この時期、相談窓口でよく聞く言葉だが、心配は無用だ。人手不足が続く中小企業では優秀な人材を確保しようとして今でも採用活動を活発に進めている。ぜひ、諦めず就活を続けて欲しい。

そこで大阪新卒応援ハローワーク（HW）は11月8日から4日連続で「目指せ！

11月8日～11日 就職面接会

大阪新卒応援HW

学ハロ大阪新聞

発行所
厚生労働省 大阪労働局
大阪新卒応援ハローワーク
〒530-0017
大阪市北区角田町8-47
阪急グランドビル118階
TEL 06-7709-9455
FAX 06-7709-9458
<https://jsite.rhlw.go.jp/osaka-young/>



ホームページ



施設紹介（動画）

第57号

2022年10月31日



LINE公式
アカウント



おすすめ企業2社紹介

2 大学で出張相談開始

4 セミナーで本番に備え

最新情報 HPで確認を
コロナ禍でイベントは？
所内で開くイベントなどは新型コロナウイルス感染症拡大防止のため中止となる場合があります。当所HPでご確認ください。

4月入社目標、企業説明付き就職面接会 2023年2月

「自分らしい働き方を探すフェア」 同2・3月

「世界一・日本一合同企業説明会」 同3月

このほか、当所では今後も就活生向けの支援イベントを次々と実施する。2023年2月上旬には4月採用を考えている企業の説明付き就職面接会が予定されている。それに合わせ同月下旬から3月上旬までを「自分らしい就活、自分らしい働き方を探すフェア」をテーマにセミナーやワークを集中的に開き、働くとは何かを就活生とともに探る。そして3月9日、10日は「世界一・日本一合同企業説明会」。独自の高い技術力を誇り世界市場を席巻する大阪の企業が集結する。

当所では引き続き、就活生と企業のマッチングが進むよう支援を強化していく。

年内内定「企業説明付き」就職面接会」を所内で開く。当日はゴムやポンプ、食品などの製造業をはじめICTや土地建物、病院など26社が参加する。職種は事務や営業、経営企画や生産技術など多彩だ。写真はイベント情報を確認する就活生。当日は応募の前に採用担当者から仕事内容についての説明がある。その後、個別または複数での面接となる。当日は1部が午後1時、2部が午後3時からそれぞれスタート。履歴書とHW紹介状、参加予約が必要だ。

町の魅力と課題、自らの足で確かめる

個別支援で内定

大学4年の時、製薬会社と食品商社に内定しました。しかし、女性でも長く働きやすい環境が整っていることや大学時代に部活動でマネジャーをしていたこともあり、民間企業で利益を追い求めるよりも、純粋な気持ちで人の役に立ちたい理由で公務員になりたいと思い内定を辞退しました。周りが社会人になる中、今年4月から試験勉強や面接対策を始めました。内定を辞退してまで公務員になる覚悟を決めたので、試験には全力で向き合いました。大阪新卒応援ハローワークでは、なぜ公務員なのか、



なぜ民間企業を辞退してまで公務員になりたいのか—など面接で聞かれそうな質問の答えをジョブサポーター（JS）に相談しました。担当のJSは相談する度に励ましてくださり、心強く感じました。受験した地方自治体の中には、ほとんど訪れたことがないところも幾つかありました。そこで私は町の魅力や市政の課題を自分の目で確かめるため、レンタサイクルで市内を回りました。再開発エリアや駅前の老朽化したビル、山際の住宅地などを訪れ、町の雰囲気を感じました。合格するための努力は惜しみませんでした。その結果、4つの市役所に内定しました。今後は地方公務員として住民のために力を尽くします。

◆当所の個別支援で意中の仕事を得た既卒の女性＝写真＝が就活を振り返った。

論理的思考と好奇心、ICTで顧客の課題を解決

ユニバーサルコンピューター株式会社

「ICTに興味があり、お客様の課題と一緒に解決したい。そんな覚悟があれば文系、未経験の方でも、ぜひ挑戦して欲しい。入社後、約半年間の手厚い研修体制でサポートする」。ユニバーサルコンピューター（本社・大阪市）



の採用担当者は期待を込めてこう語った＝写真④は同社が入る中央区のTWIN21 MIDタワービル。⑤は今福太一社長。



同社は1974年に設立され、売上高は60億6千万円（2021年度実績）。顧客のICT戦略のパートナーとして製造や物流、金融、サービス業を支えてきた。システム開発では、制御系、オープン系、汎用機系、Web系を技術の柱にネットワーク系、サーバー系から配線工事、回線調達までトータルでサービスを提供している。

毎年、約半数は文系出身者を採用している。実は採用担当者も文系出身の元エンジニアである。「初めて配属されたのが制御系だった。そこでモノが正常に、当たり前動くことに面白さと難しさを実感した」と採用担当者。文系出身で未経験だったからこそ、課題解決の喜びと難しさが経験できたという。

例えば食品倉庫の自動化システムの構築である。

「準備万端でテストに臨んだところ、これが動かない。原因は何か、プログラムのどこに不備が…。納期が迫る中、皆が汗水たらしながら修正作業に取り組んだ」。そこで知ったのは機械とソフトがきっちりと連携しないと動かないという事実である。

「何を当たり前のことを、と思うだろう。しかし、一見、正常に作動しているように見えてもその動きではダメだということもある。ソフトは正常に動いているか、ハードと連携は取れているか。見た目だけでなく正確に実証する。そんな泥臭く地道な仕事こそ、ICTの現場である」

新卒はまずテストの手伝いから始まることが多い。理由はテストこそシステムを知る基本だからである。「仕様に沿って作られているか。テストはその最終チェック。そこで不具合が出たら、なぜ仕様書とは違う動きをするのか原因を探す。理由が分かれば次はプログラムをどのように直せばよいか、それを自分の頭で考え抜く。この過程が何よりも大切だ」。何が問題かを突き詰め、どう改善するか。自ら考え抜き、順序立てて解決する。その手段がICTなのである。

だからこそ求められる人物像は物事を論理的に考えられ、好奇心が旺盛、そして何よりもICTが好きなお方である。

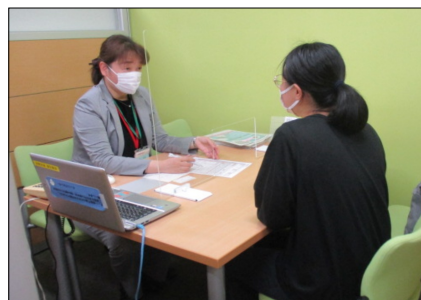
「ICTエンジニアは様々な話を聞いたり、質問したりして一人前になる。人間関係をいかに円滑に築けるか。これがカギだ」。そのため、コミュニケーション能力もとても重要で若手には日頃から報告・連絡・相談を密にせよと伝えている。

社風は真面目で細かいところまで目が届く社員が多いという。迅速さと正確性が求められる職場だからだろう。「私も現場ではしんどく、苦しい思いをした。しかし、仕事はできるようになれば必ず楽しくなる。だから若手には一人で悩みを抱え込まず、焦らないで、と」。

支えてくれる先輩が皆さんを待っている。

大阪新卒応援ハローワークでは「ジョブサポーター（JS）」が直接、企業に向き「Daily企業説明会」への参加をPRする訪問活動を続けている。そこで本稿では、現在も積極的に採用活動を続けてもらっている人物像、新入社員研修や福利厚生などについて語って

ハローワークの利用を促している。昨年度は恒常的出張相談会を通じて48人がハローワークの求人内で内定した。出張相談は来年度3月まで実施する予定。相談日は各大学によって異なるため、対象校の学生で相談を希望する方は各校のキャリアセンターに問い合わせをして予約をして欲しい。



れでもコロナ禍前の状態には回復しておらず、学内で未内定者向けセミナーを実施し、卒業生が決定するまでフォローしている。そこで就職活動の視野を広げる手段の一つとして国の機関である

今年も出張相談、お気軽に

大阪新卒応援ハローワーク（HW）は毎年9月から府内の大学や短大に出向いて学生の職業相談を受ける恒常的出張相談会を実施している。写真は相談風景。学内のキャリアセンターで定期的に専用ブースを設け、学生の希望を聞きながら会社選びから企業情報の提供や解説、応募までを担当のジョブサポーター（JS）が一貫して実施している。大阪市北区の当所まで遠く頻りに来所できない方、授業や卒論作成などの合間に就職活動が続いた方にお勧めできる相談会である。新規登録もその場でできるため、初めてHWを利用される方も気軽に立ち寄って欲しい。

各大学のキャリアセンターによると、今年度は昨年度に比べ、後期授業が始まる同時期で内定率が5ポイントほど上がったという。そ

女性の技術者も活躍。若手に寄り添いしっかりサポート

合同製鐵株式会社大阪製造所

「何事にも一生懸命に取り組み、素直に物事に向き合える方、チャレンジ精神旺盛で仕事と遊びにメリハリを付けて取り組める方を求めている。技術に関しては未経験でも大丈夫。研修を通じ先輩の技術者がしっかりと寄り添いサポートする。ぜひ会社説明会で若手育成に力を入れている社風を実感して欲しい」。合同製鐵大阪製造所＝写真＝の採用担当者は求職者にこう呼びかけた。



同社は1937（昭和12）年に創業、日本製鉄グループにおける電炉の中核を担う存在として社会インフラを支える鉄鋼製品を幅広く提供してきた。合同製鐵最大の生産量を誇る大阪製造所は線材や形鋼を生産しており、特に軟鋼線材においては業界トップクラスの位置を占め、針金や釘、フェンスなどに使われている。H形鋼は橋梁や鉄骨住宅など主に建築分野で使用されている。

同社の高い生産技術力を支えているのが技能研修である。特に新入社員は必要な技能と資格を集合研修で習得する。「溶接からクレーンの操作、規律やマナーに至るまで3か月間、仕事の基本をみっちり習得してもらおう。現場に精通した社員が技術と仕事の流儀を伝えている。新入社員の主な仕事は製鋼や圧延工場でのオペレーション、製造所の電気設備や機械設備の保全、最終製品の形状や規格、強度をチェックする品質管理、鉄スクラップ原料の検収作業などがあり、現場で一つずつ経験を積んで成長していってもらおう」。採用担当者からは新入社員教育に対する自信がうかがえた。

とりわけ技術職では近年、若手の女性を採用し、育成に当たっている。例えば今年4月入社的女性社員だ。文理学部出身だが「モノづくりの現場で手に職をつけ



たい」とハローワーク求人に応募し採用された。研修では積極的にメモを取り、先輩社員に対し素直に教えるを乞うた＝写真は溶接の技術を学ぶ研修。希望部署は電気保全。そこで彼女は『配属されるにはどうすれば良いか』と報告書で毎日、憧れの仕事に対する熱意をアピールした。当初、受け入れ先の職場も戸惑いはあったが、本人のやる気と仕事への思いがベテラン技術者の心を掴み、周囲を動かした。

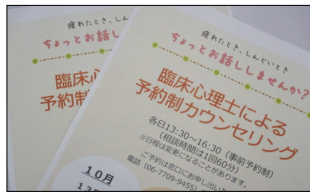
「電気班は修理依頼があれば各工場や職場を回り、電気系統のメンテナンスを担当する。今は先輩に付き、一歩ずつ知識と経験を重ねて頑張っている」と採用担当者。「品質管理部門や製造部門でも同じように技術職の女性社員が活躍している。会社としては今後も女性社員が働きやすい職場環境を整えていく。これは企業が今後、生き残る上でますます重要になる」と力を込める。

そんな社員が働きやすい環境づくりは福利厚生面にも表れている。近隣には独身寮（食堂あり）と社宅を完備。通信教育費や食事代の補助、結婚出産祝い金のほか結婚、出産、子育て、介護などの各ライフステージに応じた社員を支える同社独自の福利厚生制度を備えている。また、部活動は野球やバドミントン、フットサルが盛んで、製造所内には気軽に使えるトレーニングルームもある。

「福利厚生を充実させたのは社員に定年まで長く働いてもらいたいとの思いがあるからだ」と採用担当者。社員皆が協力しながら若手を教育育てる。社風の基本である人づくりが職場に息づいている。

疲れた時は臨床心理士に相談を

「面接で不採用が続き、気持ちが萎えてしまった。親や友人にも相談できず、どうすれば…。この時期、相談窓口で聞く言葉である。そんな時は臨床心理士によるカウンセリングを受けてみてはどうか＝写真はPRチラシ。カウンセリングは予約制。11月は17日



（木）、25日（金）。12月は1日（木）、8日（木）、15日（木）、23日（金）のいずれも午後1時半から4時半。相談時間は1回60分。予約は相談窓口か電話06（7709）9455へ。

て頂いたり、書類を添削したり、積み重ね、就活活動で頂いたり、書類を添削したり、積み重ね、就活活動

を積み重ね、就活活動で頂いたり、書類を添削したり、積み重ね、就活活動



医療機器を扱う会社の事務職に内定した方は就職活動が上手にいかず不安な日々を送っていたが「ハローワークを利用して、色んなことを相談したり、書類を添削したり、積み重ね、就活活動で頂いたり、書類を添削したり、積み重ね、就活活動

頑張るあなたに応援メッセージ

本番に備えぜひ活用を セミナー紹介

印象アップ講座では就活生が電話での話し方とお辞儀などの立ち居振る舞いを練習し、正しい言葉遣いやマナーを習得する。電話対応編では就活生が2人一組となり「企業から面接の連絡があった」「面接

入退室、ビデオ撮影



日時の変更をお願いする」などの場面を想定しながら、実際に声を出してやり取りする。一方、入退室の練習では、お辞儀や立ち姿をビデオ撮影する=写真。頭だけが下がっていないかなどをチェックした。参加者は「これまで指摘されていた点がビデオで見ると一目瞭然。ぜひ改善したい」。

書類選考や面接（1次、2次以降、最終）で採用担当者は就活生のどこを見ているのか。面接官の質問の意図はどこにあるのか。「採用担当者の『視点』を知る講座」では就活生が面接官の視点とは何かについてワークと座学を通じてもらう目的で実施している。面接官役を体験することで自らを客観的に見直し、本番の面接に生かして欲しい。

9月の講座には6人が参加した。応募者役が話す自己PRをチェックリストに基づき面接官の視点から評価した。どこを改善すれば次の面接に進めるか、どんなエピソードや立ち居振る舞いが良かったか、それぞれフィードバックすることで参加者は人事担当者の目

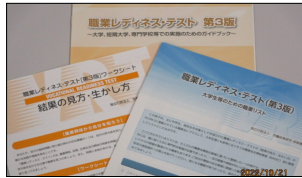
採用担当者の「視点」とは

線とは何かを理解できた。一方、応募者役も新たな気づきがあったという。

とりわけ面接選考で就活生はどう効果的にプレゼンテーションをしたり、どう答えれば印象に残るか、ノウハウの面に集中したりしがちである。そこで一度立ち止まり「なぜ、面接官はこのような質問を投げかけるのか」を考えて欲しい。質問者の意図を知り、的確に答えることは多くの人と信頼関係を築く上で必要なスキルである。講座への参加で「視点」の大切さを知って欲しい。

採用担当者の「視点」とは何か。それは「この学生と一緒に働きたいかどうか」「この会社で活躍できる人材か」である。

適職診断ワーク



「自分にはどんな仕事に向いているのか」「やりたい仕事は何か」。就職活動では多くの求職者がこんな悩みを抱え、相談窓口を訪れる。利用される方の多くは仕事の経験も少なく、こう思われるのも当然だろう。そこでお勧めするのが当所のセミナー「適職診断ワーク」である。ワークでは職業レディネス・テスト=写真=を使い、皆さんに適した職業は何かを分析する。レディネスとは「準備度」を意味する。テストでは6つの領域に関する職業興味と職務遂行の自信度、そして3つの基礎的志向性が評価される。それぞれの領域に関する質問に対し、やりたいかどうか（職業興味）、うまくやる自信があるかどうか（職務遂行の自信度）を回答していく。その後、ワークシートを使って自分のプロフィールを作成し、合致した職業についてジョブサポーターと検討する。参加者から「思った通りの結果だった」「自ら興味のある傾向が可視化でき、自信がついた」「職種の見方に生かした」との声が寄せられている。

「やるかやらないか」挑戦する就活生を支援

10月に入って多くの企業で来春に入社予定の学生らの『内定式』が開催され、各メディアでも報道がされました。過去2年はコロナ禍の影響によりオンライン開催が多かったですが、今年は多くの企業が対面での開催でした。若手社員確保に苦勞している各企業は対面開催によりコミュニケーションの場を設けることで内定辞退者や早期離職者を減らそうと考えています。また、ある企業では学生がアバターで参加するメタバース内定式も開催されました。

このようなメディア報道や周りの学生の内定状況を聞いて焦る就活生もたくさんおられると思いますが、10月からも内定を得ることは十分可能です。ちなみに昨年度、大阪新卒応援ハローワークの支援を活用して内定を得た学生のうち約48%は10月から3月の時期です。まだまだこれからでも内定を掴むチャンスはあります。

その理由は…

- ・内定辞退などにより採用計画数を確保出来ていない企業（大企業含め）があり、企業も熱心な採用活動を行う。

・早期内定者が就活を終えることにより、10月以降は就活生の数が減り企業と出合う機会が増える。など。

しかしながら、具体的にどのような活動をすればよいか迷う就活生もたくさんおられると思います。

そんな時こそ多くの就活生を支援してきた「大阪新卒応援ハローワーク」をご活用ください！日々実施しているジョブサポーターによる相談や実践的なセミナー、いつでも企業の採用担当者に会えるデイリー企業説明会に加え、来春にかけて就活生を支援する大規模イベントを多数用意しており、例えば「年内内定や4月入社をめざす面接会」や「自分らしい就活を考えるセミナー」「世界一・日本一の技術や業界シェアを持つ企業を集めた企業説明会」など様々な内容で開催します!!（大阪新卒応援ハローワークのイベント情報をいち早く得るためにライン登録もぜひ、お願いします（1面に二次元バーコードあり）。最後に唐突ではありますが、先日鑑賞した映画（水墨画を題材にした邦画）のセリフで心に響いたものがありましたのでここで紹介させていただきます。

『出来るか出来ないかではなく、やるかやらないか』

皆様は可能性に満ちています。就活と向き合いチャレンジするあなたを大阪新卒応援ハローワークはいつでも支援します。

（大阪新卒応援ハローワーク所長）